北海道通信　平成２６年９月１１日（木）

札建協が高校生現場見学会開催

スケールの大きさ体感

仕事の醍醐味も―札工生68人

一般社団法人札幌建設業協会（岩田圭剛会長）は十日、高校生を対象とした工事現場見学会を開催した。札幌工業高校土木科の二年生六十八人が、道道西野真駒内清田線盤渓北ノ沢トンネルの現場を見学＝写真＝。掘削中のトンネル内に入り、スケールの大きさを体感するとともに、先輩の土木技術者から仕事の醍醐味を伝えてもらった。

建設業への理解を促し、若年者の入職につなげようというもの。今回は、生徒六十八人と引率教諭四人の七十二人が参加。札建協からは村井悟専務理事らが同行した。

現場は、道道西野真駒内清田線社会資本整備総合交付金事業のメーン工事で、札幌市南区北の沢の小林峠付近で進められてる盤渓北ノ沢トンネル。札幌市発注で、清水・堀口ＪＶが施工を担当している。

トンネル延長は一千六百十二㍍で、一日当たり約六㍍ずつ掘削。現在は一千三百六十㍍地点まで達し、十月中旬には貫通する見込みとなっている。

冒頭、あいさつに立った村井専務理事は、見学会の趣旨を説明。「実際に現場を見て、工事の苦労なども感じ取ってもらい、建設業への興味・関心をもってほしい」と述べた。

札幌市の担当者から事業概要の説明があったあと、坑口から切羽までバスで移動し、現場の様子を見学。ＮＡＴＭ工法や土砂を運ぶ重ダンプなどの重機についての説明も受けた。工事で使用している防水シート、ロックボルト、吹付けコンクリートなどの役割についても学んだ。

トンネルの現場を訪れるのは初めてで、生徒たちからは「すごい」との声。「アドベンチャーだ」との表現で、その感動を伝える生徒もいた。土木関係への就職を望んでいる生徒も相当数にのぼり、「トンネルやダムなど、大きなものを作ってみたい」と目を輝かせていた。

入社三年目の女性技術者が女生徒二人とやりとりをする場面もあり、これからの進路などにも話は及んだ。女生徒の一人は「土木の道に進む予定。自分のつくったものが残っていくことはすごいと思う」と話していた。

最後に生徒の代表が謝辞を述べ、「今回の現場見学会で学んだことを生かし、進路決定に役立てたい」とした。

北海道建設新聞　平成２６年９月１２日（金）

担当者の説明に耳を傾ける生徒

札幌建協

坑内掘削現場に興奮

こばやし峠トンネル新設　工高生招き見学会

札幌建設業協会（岩田圭剛会長）は10日、札幌工高土木科の2年生を対象とした現場見学会を開いた。生徒たちは札幌市内で進められている道道西野真駒内清田線こばやし峠トンネル新設現場を訪れ、普段は見ることができない掘削現場に興奮しつつ真剣なまなざしで坑内を見て回り、土木工事への理解を深めた。

生徒79人と引率の教諭4人が参加。開始に当たり、札幌建協の村井悟専務理事が「土木の仕事は、市民・地域・都市のために取り組むことがやりがいとなることを、見学を通じて感じてもらいたい」と呼び掛けた。

札幌市建設局土木部の坂本一浩道路工事三係長は事業概要や進ちょく状況を説明。現場代理人を務める清水建設の新宅正道さんは「現場では品質やコスト、工程、安全、環境を確保することが求められるが、安全に最も重点を置いている」と安全の重要性を強調した。

市財政局が2011年度に発注したこの工事は、清水建設・堀口組共同体が施工。全長1612㍍のうちこれまでに1390㍍をNATM工法で掘進している。

一行はトンネル先端部で、監督員から作業工程や工法の特徴、掘削土砂を処分するための分岐トンネルなどについて説明を受けた後、坑内を見学。生徒たちからは「日常業務ではどのような作業を行っているのか」「壁に書いてある数字の意味は」といった質問が上がっていた。